

# 私の保育

## ——幼児教育の反省——

「私の保育」という題をいただいて執筆ということで、私はあらためて「私の保育」といえるものがあるだろうかとちょっとためらいを感じました。

思えば、三十年、一見、長い年月、保育にたずさわってまいりましたが、私にとってはことし、学校を卒業した新卒の気持ちで過してしまっただけです。事実、一日として満足した保育が出来なかったのです。きつと、これからも同じ繰り返しではないかと思えます。この機会に過ぎた日々を考えおこして自分の反省としてみたいと思えます。

### ○新卒時代

私が学校を卒業した頃は、戦争直後で社会も落ちつかない



金子 房子

時代でした。それでも私達は、倉橋先生の御言葉と及川先生の御指導を背に、胸をふくらませて現場に巣立ったものです。しかし今日の先生方と違い幼稚園の先生になっても教えられないか心配で、指導などの意識はなかったようです。

教える、指導するためには、子どもたちに何らかの利益を及ぼさねばならない、それには私自身あまり未熟でそれだけの価値がないと思い、先生といわれることは私の中では将来の目標だった気がします。

そのかわり自分の全身全霊をつくして子どもたちに捧げよう、それが子どもたちにとって何らかの役に立ち、それが指導の出発点と考えました。

教えるためには、知識も広くもたなくてはと思いい周囲の先

生方からすべてを貪慾に吸収しようとも考えました。

さて、職場に出て子どもの前に出たとき、きらきらと輝いている目で見られたとき私は思わず、震えがきたものです。

何か私の心の奥まで見通されたように思えたものでした。

今でも自分が不用意に子どもたちの前に立ったときには同じような気持になります。

「せんせい、せんせい」と呼ばれる度、冷や汗をかいたものでした。

子どもと同じように遊びにまけてもらっている中に、「せんせい」というのは名前として呼んでいるのに気づいたので安心したものでした。しかし、それでも自分を「先生」とは言えず「あたし」とか自分を指さしたりしたものでした。

勤務は何でもつらい仕事は率先してしようと心に決め、朝も一番に出勤し清掃、お茶入れ、日曜日にはピアノの練習にと幼稚園に通ったものです。

清掃をする場合でも「これはお子さんの使う机だから……」と思うと力が加わって、それが子どもたちへの愛情のひとつだと考えたりしてみました。

先輩の先生がピアノを弾かれると子どもたちは元気に大きな口をあけて楽しそうに歌を歌うのに、私がピアノを弾いて

も、がやがやと騒いで一人へり二人へり、とうとう誰もいなくなってしまうことが何回もありました。

子どもと同じように遊びすぎて他が見えず「後に目がない」と注意を受けたので螺旋に後を振り向き／＼歩くようにしたため、目が廻ってしまったこともありました。

お弁当のときも、子どもたちの食べるのが早く、すぐに外に遊びに出ていってしまうので、ご飯を丸呑みにして食べた等、時折、自分でもつまらない努力をしているのでは、と考えてみたりしたときもありました。思い起すと、まだまだ様々な、あまり効果的でない努力をしたように思いますが、それが今になって、教育実習生や新卒の先生に接する時、この経験は無駄でなかったことに気づきました。

### ○幼稚園の今昔

私も中年になりくどくなったのでしょうか老婆心が強くなったのでしょうか、幼い子どもたちのことを思うとき、生をうけて始めて接する人間は母親、次は幼稚園の先生ではないかと思えます。

子どもの教育とは子どもの成長発達を促すような環境を人為的に作ってあげること、教育の主体は子ども側にあるの

です。

幼い子どもたちは抵抗を示さず順応していくので幼稚園の先生の存在は重要であり、先生により子どもたちがどのような人間になるか決まってしまうのではないかと思います。

先日から、実習生が来て、子どもたちの前に立って保育する様子をみて驚きました。

態度は堂々たるものです。「先生／＼」と自分のことを連発し、子どもを自分に従わせようとしています。言葉も粗雑で、すべて命令調です。

何事も上手に出来ないのと、子どもの責任のように考えて自分の反省はないのです。幼稚園の先生になるのに少しも子どもと遊ばず、高い所から観察しているだけです。

子どもを一斉に集めてすべて言葉で子どもを号令のもとに動かすのです。これでは大学の先生と同じような教え方だと思います。

幼い子どもを教えるということは、自分のからだを使って肌を通して、自分の子どもと同じように遊ぶことから子どもの心の動きを受けとめ、子どもの理解も深まるし、子どもの欲求や興味、関心をわかることになり、指導の前段階になると考えられます。

最近の幼稚園では先生にまつわる子どもの姿や、先生をぶったりする姿は、あまり見られなくなりました。

子どもにまつわられることがよい指導とは申しませんが、私が思うには、今の先生は子どもとの距離がありすぎて、子どもたちが先生に愛情を抱くまでに親近感をもち得ないのではないのでしょうか。

子どもたちも利口になったのかもわかりませんが「おかあさんの次に先生が好き」これが幼児が始めて他人への人間関係の出発点となると思います。

勿論、教師や親には、このような子どもに育てたいという人間像はあっても、相手の子どもを無視しての指導は効果があがらないのではないのでしょうか。子どもの教育は、子どものためにするものであり、教師のためのものではないからです。

教師が満足を得るためでは教育ではなく自己満足になっ  
てしまいます。子どもの欲求を正しく知り、よい方向にむ  
け、相手が満足するように教えたいたいです。

時折、私は若い先生達にこんなことを話します。

「あるときは子守りに、あるときは友だちに、あるときはおかあさんに、仲間に、お姉さんに」と。その時々、相手や場

合で接し方を変えていけば指導も子どもに満足感を与えながら出来るように思います。

これも指導の方法の一つの助けになります。

教えるということは客観的な知識、技能、行動への構えといわれています。これを上手に組み合わせること教えることになるのだと思います。

教師は職業であるといわれるようになり、今は知識や技能を重視し、性格行動はあまり教師に期待しない時代になって来たようですが、私は幼児教育は前述の行動の構えが中心であり、教える私共の人格ということが強く子どもたちに反映するようにと考えています。

昔の幼稚園は、殆んど教材はありませんでした。ローソクのようなクレヨン、更紙のような絵本、画用紙、濁ったような色の折紙、それらもあればよい方でした。

教材のすべては、教師のアイデアにより作られた手作りものばかりでした。ニカワを入れて新聞粘土を何日もかけて作ったり、古葉書で製作したり、それは教材準備に時間がかかり、その上あまり子どもたちの興味をそめることはできなかつたような気がします。

それに比較して現在は教材の氾濫時代、教師が指導の助け

に自由に教材を選びとり入れられ、アイデアも広く拡がりやすいように思いますが、それにしては、あまりにも教材そのものにたより過ぎたり、安易に教材を使いすぎているのではないでしょうか。

活動の内容もパターン化してきているように感じられます。物資が豊富になると人間は知恵を働かせたり、創造活動もなくなるのではないのでしょうか。

こんなように書いていきますと昔の先生がよく、環境条件もよいように思われますが、おどおどした先生は、子どもにとり不安な気持をもたせたでしょう。

教師らしい先生には統率力と安定感があると思います。

数日前、子どもが私に「せんせい遊ぼう」と誘いに来てくれました。まだまだ子どもたちは私を仲間として認めてくれています。

私は、もし子どもたちから友達として仲間として扱ってもらえなくなった時、私は指導が出来なくなってしまうと思ひ、幼稚園の教師の資格がなくなったと考えると思うこの頃でございます。

幼稚園は子どもたちが楽しく、よろこんでくるところ、先生や友達と遊びその中から、いろいろな体験、経験を重ねて

いく、幼児は生活すべてが遊びであったが時代の要請によってでしょうか、ずい分社会の流れによって変わってきました。

テレビ時代には視聴覚教育が全盛でした。

カリキュラム、教育課程編成時代、体育的遊び、数量、図形の指導、思考力を育てる指導、ひとりひとりを大事にする指導、心を育てる指導、生き生きとした子どもを育てる指導、まだ細かいものを入れれば数限りなくありました。

私も時代につれ、流行の服を買うように、研究会に出席したり、本を読んだりと時代に遅れまいとしました。

学校時代に倉橋先生から受けた教えの数々が私の頭の中に強く焼きついていて、なかなか納得が出来ない内容のものもありました。

どれも大事な教育の一つと思いますし、どれ一つも欠けてはならないものと考えます。

子どもたちは昔も、今と同じように未分化で多くの可能性を秘めています。

私は、いつも壁につき当たった時、倉橋先生の『育ての心』『幼稚園雑草』を読んで考えます。

小学校指導要領が改訂になり、その内容の柱は、倉橋先生の教えに近いように感じました。共に私は教えを受けて教育

に職を奉じ幸福だと感じています。

現在は、主任というちょっと教師としては曖昧な立場で事務、雑務ばかりいたしていますが、これも間接的に子どもたちに役立つと思うと、喜びに変わります。

この頃では、子どもたちが「せんせい何のせんせい?」

「おそうじ? 遊べないで可愛そう!」と声をかけられます。

担任の先生が気を使って「えらい先生よ」というと「わはは……」と笑います。

補教でいくと「ピアノ弾ける? ここに紙入ってるよ」といろいろと教えてくれます。

「あら、こんなにむずかしいこと出来ない」というと「ばかだなあ!。やってあげるよ」といいます。

相撲など一緒に遊ぶと、さあ大変、みんな、からだの上に乗られてしまいます。私はこんなとき一番、幸福感にひたります。

もう私のように遊び友達になって、よい方向づけしながら指導するのは、古い教師なのでしょう。

最近、幼稚園教育用語も大変むずかしい言葉が使われるようになってきました。言葉のおさえや理解がはっきりして使うのならばよいと思いますが、書いたり、言ったりして指導

した気分になる場合があるようです。

指導案の「ねらい」の言葉にしても立派すぎて、果してどの程度に理解され、おさえているのか疑問をいだきます。子どもの成長過程や欲求を考えて、もっと具体的に、こんなようにして、こんなようになってほしい、そのために教師はこのような援助をしようと考え、幾通りかの場面を想定してから、言葉を使ってほしいと願っています。

指導案に書くだけでは、子どもたちの指導はできません。子どもを無理にひっぱったり子どもに満足感を与えられないでしょう。

子どもの満足感や成功感が経験となり、成長ということになります。

指導とは、綿密な準備と用意と、タイミングが効果的な指導だと思います。何年やっても満足できる指導が出来ないのは、時代や個々の子どもがいるいろであるからだと思います。

それでも私は常に教育は新鮮であるべきと考えております。

教師があまり教える意識が先行すると、どうしても子どもに意欲がなくなると思います。また教師はもっと子どもの心

をひきつける魅力の持主であることが必要と思います。また、アイディアの持主であることが子どもの興味をそそります。アイディアは、教師の指導の技術や方法の助けとなります。これも特別に訓練しなくとも、日常の生活の中で、ものの方、考え方を多角的にする姿勢で養われると思います。時間的に余裕のない人の勉強法でもあります。これは教材研究の一端ともなります。私共の生活をちょっと意識を変えてみてはどうでしょうか。

### 〇おわりに

現在は、幼児教育が人間性の基礎となるということ、社会一般にもいわれるようになりました。

私共の指導している子どもたちは、次の社会を担う大切な人間であります。私はこの子どもたちに、限りない愛情をそそいでいきたいと願っています。幼稚園の教師も重要視されてきた時代ですから、その期待に答えて私は、健康で明るく、視野を広くし、私のすべての能力と経験を生かして、幼児教育に、残り少ない教職を悔いなくすごしたいと考えてます。

(東京・大田区立矢口幼稚園)